

提出日 平成 24 年 4 月 10 日

平成 23 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 (該当に○)

海外共同・共同研究・個人研究・出版助成

研究代表者 (所属・職名・氏名) 国際学部・准教授・西山暁義

研究課題名

ヨーロッパ国境地域における歴史的記憶の現在—アルザス・ロレーヌ、シュレジエンの事例から

研究分担者 (共同研究者)

なし

研究期間 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

研究を実施することになった経緯 (海外共同の場合のみ記入)

該当せず

研究組織 [氏名, 所属, 役割分担]

本研究は、個人研究であるため、以下の課題を研究代表者がすべて行った。

(1)アルザス・モーゼル記念館の関係者とのインタビューと資料収集

すでに同記念館の中心的人物であるマルセル・スピセル氏とはコンタクトをとっているが、今回の研究に当たり、本記念館の設立の経緯、コンセプト、開館から5年を経ての活動状況について、インタビューを行う。と同時に、同記念館が発行しているニュースレター等を活用しつつ、文書資料によるその裏付けも行う

(2)シュレジエン博物館の関係者とのインタビューと資料収集

2月の学部研修旅行の際に訪問予定となっている同博物館についても、(1)と同様に研修旅行時にコンタクトをとるべく働きかけたうえで、平成23年度の夏季休暇期間を利用して、(1)とともに資料収集と関係者へのインタビューを行う。

(3)資料の分析

(1)、(2)による資料の収集をふまえ、両地域についての比較的分析を行う。

研究発表 (印刷中も含む) 雑誌及び図書

本年度総合文化研究所紀要において発表予定

研究実績の概要

アルザス・ロレーヌ歴史記念館にかんする調査については、2005年の開設に至るまでの新聞等における議論を収集する一方、開設後の活動についても年次報告等の資料を取得し、また関係者に対するインタビューを実施した。シュレジエン博物館にかんしても、同様に関係者へのインタビューの実施と、関連資料の収集を行った。

現在の時点ではアルザス・ロレーヌにかんしての方がこれまでの研究蓄積もあり、分析考察は進んでいるが、シュレジエンにかんしてもこれまでの成果を踏まえ、さらに必要に応じて追加の取材を行い、可能な限り対等な形の比較考察を行い、紀要論文において成果を提示する予定である。